

家族経営協定のすすめ



～ 農業経営や暮らしに生かす ～
家族で話そう「家族経営協定」

郡山市農業委員会事務局

家族経営協定

『家族経営協定』とは、意欲とやりがいを持って経営に参画できる魅力的な農業経営を目指し、経営の方針や家族一人ひとりの役割、働きやすい環境づくりなどについて、家族みんなで話し合いながら取り決める『家族のルール』を文書化するものです。

農業経営の現状確認を出発点に、性別、世代を越えて対等に話し合いを進め、家族や個人が「仕事と生活の調和」を保ちながら、夢に向かって進んでいくツールとして、家族経営協定を活用してください。

家族経営協定のポイント

家族みんなが
経営参画

女性農業者
の地位確立

後継者の自立を
バックアップ

法人経営の
確立を支援

家族経営協定締結の手順

1 現状はどうだろう？

家族みんなで現在の経営や生活について話し合い、就業や生活の条件や、経営の改善点を明らかにします。

2 改善の方法は？

改善点を踏まえて条件を検討し、対応策を考えながら経営の目標や方針を決定していきます。

3 協定書に調印しよう

話し合いの結果、家族みんなで決定した内容で協定書を作成し、第三者の立会いの下、調印します。

4 見直して充実させよう

締結した協定書を生かして実施状況や条件を家族で話し合い、経営や生活の改善に役立てていきます。

家族経営協定書

家族や営農風景などの写真を
お貼りください。

協定を締結する家族みなでお撮りになった写真をご準備下さい。

【我が家の経営理念】

家族みなで話し合った目標を記入します。協定書の第3条（経営方針・理念・目標）と同じ内容になります。

令和 年 月 日 調印

（ 経 営 主 ）

（ ）

締結する方は全員記入します。（ ）には経営主との続き柄を、____に氏名を記入します。

家族経営協定書

「甲」に経営主の氏名を、「乙」以降に締結する方の氏名を記入します。

(目的)

第1条 この協定は 甲 _____、乙 _____ が相互に責任ある経営の参画をととして、近代的な農業を確立するとともに、健康で明るい生活を築くことを目的とする。

(意思決定の参画)

第2条 営農方針・計画の樹立、施設等の投資、及び資金の借入、新規部門の導入、経営転換の実施、並びに経営形態の変更(法人化への移行)等、家族経営の重要な意思決定にあたっては、甲、乙は、必ず参画し、十分な協議を行って決めるものとする。

(経営方針・理念・目標)

第3条

家族みんなで話し合った目標を記入します。協定書の表紙【我が家の経営理念】と同じ内容になります。

(経営の役割分担)

第4条 農業経営における個人の責任を明確にするため、それぞれの希望、特技、技能等を互いに尊重しながら以下のように役割分担する。

なお、家事・育児等については家族全員で臨機応変に対応し、負担が偏らないようにする。

担 当 者	役 割 分 担
甲	
乙	

「甲」に経営主の氏名を、「乙」以降に締結する方の氏名を記入し、役割分担は記載例を参考に記入します。

(役割分担 記載例)

水稻(主)、水稻(副)、果樹(梨)、野菜部門、野菜(直売)、花き部門、飼育管理、飼料作物生産管理、搾乳、堆肥管理、新技術・新規作物の導入、作付け計画、作業計画管理、病虫害管理、作業日誌記帳、農機具管理、農機具オペレーター、農業資材管理、経理、経営企画、簿記管理、資金管理、委託先管理、雇用管理、家事、育児、介護、従事者の健康管理、家計記帳、作業補助

(収益分配の実施)

第5条 農業経営から生じる収益については、甲、乙で話し合い、それぞれの年齢、任務等を考慮した額が分配されるものとする。

ただし、予期せぬ事情によりこの額を変更しなければならないときには、家族で協議し合意を得るものとする。

労働の対価としての報酬や経営の寄与に応じた収益の配分が話し合うポイントです。

対 象 者	分 配 方 法
乙	月額 _____ 万円（毎月 _____ 日 手渡し）

上記の給与のほか、所得目標を達成した場合等、その状況に応じて賞与を与えることができるものとする。

日々の労働時間を把握できているか、必要な休養を取れているか、休暇取得に向けた調整や作業分担できているかが話し合うポイントです。

(労働時間と休日)

第6条 1日の労働時間は、甲、乙とも _____ 時間 とするが、役割や農作業の繁閑によりにより協議の上、延長又は短縮する。

また、家事・育児時間は労働時間にみなし、農作業の始業、終業の時刻に配慮する。

なお、休憩時間は農作業に応じて適宜とり、健康管理に努める。

休日は、週〇日
や月〇日と記入します。

2 休日については、各々、_____ 日とし、農業経営に関する研修や自己の都合等により休日をとることができるが、家族の連携を密にし、仕事に支障のないように配慮をする。

また、正月、盆等の祝祭日についても話し合いのうえで決定する。

3 リフレッシュのため、農閑期には計画的に休暇をとるようにする。

日々の生活で生じる家事の分担や家計の管理、健康管理や老後の備え、防災対策など生活に必要な事が話し合うポイントです。足りない部分は追加で記入します。

(生活及び健康)

第7条 健康で楽しい農業経営を行うため、それぞれが健康管理に努め、各々、年1回、健康診断を受ける。

2 趣味を楽しむ時間や、外食の機会を設ける。

3 年1回以上、家族旅行を実施する。

(研修や社会活動)

第8条 経営能力や生産技術の向上を目指し、各種研修会、視察等には積極的に参加するとともに家族内でも参加を配慮する。

作業終了時や夕食時など
家族がそろう時間帯にすると
実行しやすいです。

(家族会議)

第9条 家族会議は 毎日 _____とし、農作業の状況や作業計画、地域行事等について話し合う。

経営権や資産、相続など、
円滑な世代交代に向けて準備
しなければならない事が話し
合うポイントです。

(将来の経営移譲)

第10条 農業経営に必要な農業資産の分割を防止するため、甲が有する経営権及び経営用資産については、将来、甲、乙の合意に基づき、移譲するものとする。

(その他)

第11条 この協定書に規定されている以外の事項で、決定すべき事項が生じた場合は、その都度 甲、乙で協議の上定めるとともに、必要に応じて改訂を行う。

(附則)

- 1 この協定書は、令和 年 月 日より実施する。
- 2 この協定書の有効期限は、実施の日から1年とする。なお、本協定締結者は毎年見直しを行い、異議ない場合は自動的に更新する。
- 3 この協定書は、甲、乙、及び立会人が各1通保有する。

協定書の表紙に記入した調印日と同じ日か、調印日以降の日を記入します。

協定書の表紙に記入した調印日と同じ日を記入します。

令和 年 月 日

住 所

甲

印

乙

印

協定締結にあたり、第三者が入る事で締結者それぞれに意識を高めてもらうことを目的として、立会人に署名してもらいます。地区の農業委員や農地利用最適化推進委員をお願いします。

立会人

印

協定書は、協定を締結する人数分に農業委員会事務局で保管する分1部を加えた部数を作成し、協定締結者がそれぞれ1部ずつ保管するとともに、農業委員会事務局へ1部提出します。

家族経営協定締結で活用できる制度上のメリット

認定農業者制度

家族経営協定の締結を要件に、認定農業者になるための共同申請が認められています。(配偶者や農業後継者も認定農業者になれます。)

農業者年金

青色申告などの一定の要件を満たす認定農業者等は、月額最高1万円の保険料の国庫補助が受けられます。

制度資金融資

家族経営協定の締結に基づき、農業改良資金や農業近代化資金等の融資を配偶者や後継者が自分名義で受けられます。

※各種制度については詳細な要件があります。

家族経営協定締結の目的とメリット

夫婦二人での農業経営

目的

お互いが自立した農業者として、対等な立場で経営を築く。

メリット

- ★お互いが共同経営者として認め合い、経営に積極的に参加できるようになる。
- ★家事、育児の分担や協力が出来るようになる。



後継者が就農する時期

目的

後継者にやる気・興味・自信を持たせる。

メリット

- ★経営の目標が決定し、後継者が農業経営に主体的に参画できるようになる。
- ★後継者が収益分配されることにより、責任を持って農作業に取り組める。
- ★定期的な休日や労働時間が明確になり、仕事に張りが生まれ、計画的に作業が出来る。



後継者が結婚する時期

目的

家族の一員として配偶者を迎え、親夫婦との円満な人間関係を作る。

メリット

- ★収益が分配されることで、後継者夫婦の経済的裁量が広がり、生活面の計画が立てやすい。
- ★家事、育児も労働の一部として位置づけられ、家事、育児分担も明確になる。
- ★後継者の配偶者にとっては、気兼ねなく、安心して育児が出来る。



経営移譲をする時期

目的

スムーズな経営・家事の移譲と親夫婦の生活保障に配慮する。

メリット

- ★後継者の経営に対する意欲が高まり、責任が持てるようになる。
- ★話し合いにより、スムーズな経営移譲が出来る。

